



創立40周年記念誌

愛に支えられて

創立40周年記念誌

愛に支えられて

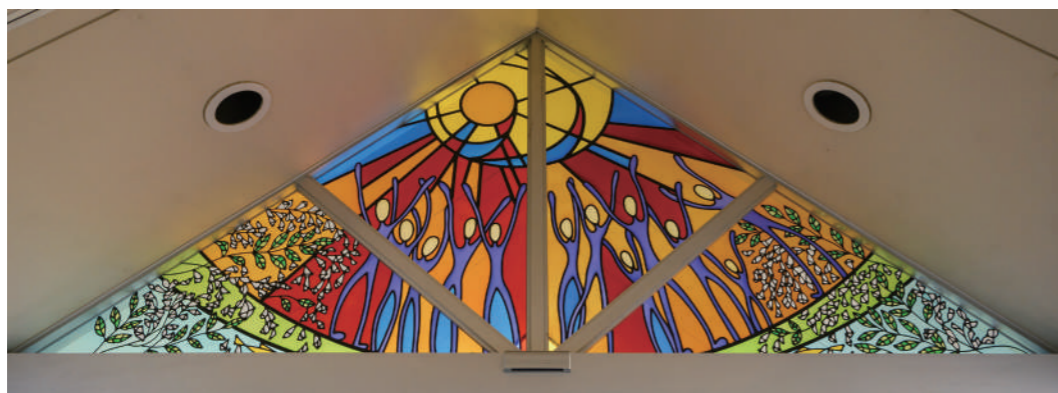
社会福祉法人
アカシヤの里

基本理念

自立・自己決定・人格の尊重

運営方針

- ・利用者一人ひとりの個性を尊重し、人格を尊重しながら、それぞれが自立して日常生活又は社会生活を営むことができるよう総合的に支援します。
- ・地域で暮らす障害者ができるかぎり地域の中で、日常生活又は社会生活を継続して営むことができるよう総合的に支援します。



アカシヤの木々に囲まれ、皆で太陽に向かって伸びていくイメージを表した施設玄関のステンドグラス

ご挨拶

愛に支えられたアカシヤの里

社会福祉法人アカシヤの里
理事長 杉村佳津子



アカシヤの里は、1984(昭和59)年8月、知的障害者のご家族や関係者の皆様からのご要望を受け、「石川県立自立訓練センターアカシヤの里」として創立し、今年で40周年を迎えました。この間、石川県・金沢市をはじめ多くの方から温かいご支援を賜り、心から深く感謝申し上げます。

創立40周年記念誌を発刊するにあたり、特に、アカシヤの里創立までの経緯を記録に残したいと考えました。それは、障害のある子を持つ親同士が手をつなぎ、施設の開設を行政に粘り強く働きかけ、自ら運営しようとした、その心意気や奮闘がなければ、おそらくアカシヤの里は誕生していなかったと思ったからです。当時、奔走された方々やご両親も既にご高齢となり、亡くなられた方もいらっしゃる今、記録としてきちんと残さなければ永遠に埋もれてしまうと危惧しました。

また、この40年間、障害者福祉に係る法律や制度の改正等に伴い、アカシヤの里も民営化への移行、措置から支援費制度へ、居室の個室化、土地・建物の取得など次々と新たな課題に直面し、その都度、役員・保護者・職員等で話し合い、乗り越えてきました。この記念誌では、それらの忘れられないエピソードも「読み物」としてまとめているので、ご一読いただければと存じます。

たとえ世の中がどのように大きく変化しようとも、私たちはこれからも家族のような温かな気持ちで利用者に接し、アカシヤの里で安心して過ごしていただけるよう、力を合わせ支援を続けてまいります。

結びに、今日まで多大なご尽力・ご協力を下さったすべての皆様方にあらためて感謝し、今後とも一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「親なきあと」も安心の施設

アカシヤの里保護者会
会長 向井俊一



アカシヤの里が創立40周年を迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。

アカシヤの里が誕生したのは1973(昭和48)年、金沢大学附属養護学校に子どもを通わせる保護者が、卒業後のわが子の居場所をつくろうと勉強会を始めたことがきっかけでした。それから1984(昭和59)年にアカシヤの里が開所するまでには、保護者だけでなく、金沢手をつなぐ親の会や石川県及び金沢市など、多くの方のご尽力がありました。

開所後も決して平坦ではない道のりを一步一步進み、近年では、施設の居室の個室化や食堂・厨房の改修、グループホームの移転新築や改築など、懸案となっていた利用者の居住環境の改善が図られました。そして、職員の皆様が利用者の個性や気持ちをよく理解し、親身に生活を支えてくださっていることが、何よりの安心になっています。

常に利用者ファーストで施設運営に取り組まれてきた歴代の理事長、施設長に敬意を表するとともに、特に職員の皆様には感謝を申し上げたいと思います。

アカシヤの里は住宅や事業所などが立ち並ぶ栗崎地区に立地し、“まちなか”にあって、地域の皆様やボランティアの方々が利用者を温かく見守り、支えていただいていたこともまた、心強い限りです。

わが子の行く末に心配は尽きませんが、保護者会は、会員同士が交流し、学び合い、「親なきあと」も安心して利用者が生活できるよう、アカシヤの里と車の両輪となって前進してまいります。一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

目次

- 基本理念、運営方針 2
- ご挨拶 社会福祉法人アカシヤの里理事長 杉村佳津子 3
- 祝 辞 アカシヤの里保護者会会長 向井俊一 4
- 40年の歩み 6
- 時代のエピソード
 - ① 開設までの保護者の奮闘 16
 - ② 船出当時の試行錯誤と若者たち 18
 - ③ 完全民営化で決意を新たに 19
 - ④ 土地と建物を自己所有化 20
 - ⑤ コロナ禍と能登半島地震 21
- 桜梅桃李～アカシヤの日々～ 22
- 資料編 31
- 編集後記 44



アカシヤの里での生活や地域、人々との交流の中で利用者が見せる生き生きとした表情を中心に、今日までの40年の歩みを振り返ります。



アカシヤの里の竣工式に出席する中西陽一石川県知事
=1984(昭和59)年7月



木谷公園(金沢市粟崎町)を会場に初のマラソン大会を
開催=1985(昭和60)年7月



バザー初開催
=1985(昭和60)年11月



クリスマス会で笠地蔵を演じる
=1985(昭和60)年12月



食堂で楽しい餅つき大会のひとつ
=1985(昭和60)年12月



金沢広坂教会で開かれた知的障害者の成人式に参加
=1987(昭和62)年1月

● 主な出来事

西 暦	和 暦	事 項
1984	昭和 59	1月、「社会福祉法人アカシヤの里」設立 8月、精神薄弱者更生施設「石川県立自立訓練センターアカシヤの里」(定員50名)開所 当法人が運営を受託
1985	60	5月、施設交歓運動会に初参加(実践倫理会館グラウンド) 11月、バザーを初開催
1986	61	6月、親子一泊旅行を初開催 12月、スペシャルオリンピックス水泳大会初参加
1987	62	冷房設備設置 10月、県知事夫人が一日施設長に就任
1991	平成 3	台風19号災害復旧事業 屋根瓦・ソーラーシステム修繕 4月、グループホーム「さかえ寮」(定員男性4名)開所



アカシヤの里自慢のプールで玉入れのレクリエーションに
興じる=1987(昭和62)年7月



国鉄体育館で行われた施設合同卓球大会に出場
=1988(昭和63)年1月



花見遠足で石川県森林公園へ
=1988(昭和63)年4月



金沢市の医王山スキー場でスキーに挑戦
=1989(平成元)年3月

1992(平成4)～1999(平成11)



入所者が意見を交わした第1回アカシヤサミット。議題は「オシャレ」=1992(平成4)年5月



奈良への親子一泊旅行で、東大寺やドリームランドを回る =1992(平成4)年10月



創立10周年を祝った記念式典 =1994(平成6)年8月



歌謡舞踊ショーで一緒に歌う =1995(平成7)年4月



保護者と一緒に勉強会を開催 =1996(平成8)年2月



三国山(津幡町)へ登山遠足に =1996(平成8)年9月

● 主な出来事

西 暦	和 暦	事 項
1992	平成 4	9月、愛護ソフトボール大会に初参加(金城短大グラウンド)
1993	5	2月、愛護ボウリング大会に初参加(百万石グラウンドボウル)
		5月、石川ゆうあいピックに初参加(西部緑地公園)
		理容室増設
1994	6	8月、創立10周年記念式典
		10月、石川ゆうあいピック全国大会(群馬県)に1名参加
1995	7	居住棟玄関風除室設置
1997	9	室内プール修繕
		玄関自動ドア・障害者用駐車場等バリアフリー化
1998	10	居住棟外壁取替工事・体育館床補修等
1999	11	マイクロバス導入



松任総合運動公園で開催された石川ゆうあいピックに出場 =1997(平成9)年6月



カラオケのレクリエーションではりきる =1998(平成10)年3月



皆でカレーを作り、青空の下で食事会を楽しむ =1998(平成10)年5月



花壇づくりで施設的环境美化にひと役 =1999(平成11)年7月

2000(平成12)～2007(平成19)



春の遠足でアリス館志賀を見学
=2000(平成12)年4月



県知的障害者施設協会ソフトボール大会に出場した
アカシヤの里チーム=2000(平成12)年9月



施設対抗グラウンドゴルフ大会に参加。4人のポーズも
ばっちり=2000(平成12)年10月



県寿司協同組合が「寿司の日」にちなんで慰問
=2000(平成12)年10月



芽吹きの始まった手取峡谷でリフレッシュ
=2001(平成13)年4月



講師を招いて開いたお茶会で、正座して抹茶と干菓子を
味わう=2001(平成13)年7月

● 主な出来事

西 暦	和 暦	事 項
2000	平成 12	ワゴン車導入
2001	13	車庫新設、冷房機器・厨房機器取替等
2002	14	5月、石川県障害者スポーツ大会に初参加(松任若宮体育館)
2003	15	「さかえ寮」改修(個室化)
2004	16	4月、運営が石川県から当法人に引き継がれ、完全民営化。名称を「アカシヤの里」に変更 8月、創立20周年記念式典
2005	17	居住棟トイレ改修 10月、前年までのバザーを「アカシヤの里まつり」と名称を変えて初開催
2006	18	10月、障害者自立支援法に基づき「アカシヤの里」「さかえ寮」の事業指定を受ける



ルネス金沢でプール遊び
=2002(平成14)年9月



秋の旅行で福井県立恐竜博物館を訪れ、おっかな
びっくりの記念撮影=2003(平成15)年11月



創立20周年を記念したバザーで歌を披露
=2004(平成16)年10月



長崎県へ旅行に出かけ、ハウステンボスを満喫
=2004(平成16)年12月

2008(平成20)～2015(平成27)



暑い夏、プールで運動を兼ねて涼む
=2008(平成20)年7月



星が岡牧場(能美市)でアルパカと触れ合う
=2008(平成20)年10月



親子ペタンク大会でニュースポーツの楽しさを体験
=2009(平成21)年9月



旅行で岐阜県のひらがの高原へ。秋晴れに皆ごきげん
=2011(平成23)年11月



福井県の丸岡城。桜は満開だったけどちょっと寒かった
=2012(平成24)年4月



着ぐるみ人形劇で盛り上がり、出演者とピースサインで握手
=2012(平成24)年5月

● 主な出来事

西 暦	和 暦	事 項
2011	平成 23	2月、アカシヤの里将来構想策定 女子居住棟多目的室増築 訓練棟エレベーター設置
2012	24	4月、障害者自立支援法に基づき「アカシヤの里」のサービスを施設入所、生活介護、短期入所へ「さかえ寮」のサービスを共同生活介護、共同生活援助へ移行 6月、「相談支援事業所アカシヤの里」開所(計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援) 「アカシヤ寮」敷地・建物取得、改修
2013	25	7月、グループホーム「アカシヤ寮」(定員男性6名)開所、「さかえ寮」(定員女性4名)と合わせて運営 「アカシヤの里地域交流センター」開所(2022年3月末廃止) 男子居住棟非常階段取替
2014	26	4月、障害者総合支援法に基づき、共同生活介護が共同生活援助に一元化 8月、創立30周年記念式典
2015	27	4月、「ヘルパーステーションアカシヤ」敷地・建物取得、開所(2021年12月末廃止)



創立30周年の記念式典で全員集合
=2014(平成26)年8月



金沢市高砂中学校同窓会から寄贈されたベンチで日光浴
=2015(平成27)年11月



アカシヤの里まつりで歌と演奏に合わせてダンス
=2015(平成27)年10月



県障害者スポーツ協会のボウリング大会に参加。ストライクは取れた? =2015(平成27)年2月

2016(平成28)～2024(令和6)



ユニバーサル・スタジオ・ジャパンを訪れ、夢のような時間を過ごす＝2017(平成29)年11月



食事を盛り上げたフラの衣装とダンス＝2018(平成30)年8月



犬山市の明治村へ出かけ、京都市電の乗車体験でピース＝2018(平成30)年11月



満開の桜を楽しみに希望の丘公園(七尾市)へ＝2019(平成31)年4月



加賀市山代温泉の一泊旅行でハロウィンの仮装も＝2019(令和元)年10月



納涼祭でアカシヤ太鼓の見事なパチさばきを披露＝2021(令和3)年8月

● 主な出来事

西 暦	和 暦	事 項
2016	平成 28	1月、「あわがさき訪問看護ステーション」「あわがさき訪問介護ステーション」開所(2021年12月末廃止) 女子居住棟非常階段取替
2018	30	3月、男子居住棟新築(個室化)
2019	31	1月、アカシヤの里敷地を金沢市から、建物を石川県から取得
2020	令和 2	2月、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、帰省自粛等開始 3月、女子居住棟全面改築(個室化) 10月、「さかえ寮」移転新築
2021	3	7月、アカシヤの里厨房及び食堂改修
2022	4	3月、訓練棟トイレ改修 8月、「アカシヤ寮」改築
2023	5	8月、特別浴室完成
2024	6	1月、能登半島地震により建物等に被害、被災者を受け入れ



新しいマイクロバスが到着。これからの遠足や外出の相棒に＝2021(令和3)年11月



ボールを投げて的への近さを競うポッチャ大会で優勝を目指し真剣な一投＝2022(令和4)年6月



皆でつくった大作を県障害者ふれあいフェスティバルに出品＝2023(令和5)年9月



「きらめく個性!全国障害者作品展」開会式で、きらめく傘のアートを鑑賞＝2023(令和5)年10月

開設までの保護者の奮闘

— 1973(昭和48)年～1984(同59)年 —

「居場所づくり」への切なる願い

金大付属養護学校の勉強会が発端

アカシヤの里は、知的障害のある子どもが養護学校卒業後に、自立支援や訓練によって社会参加できる場を親たちが切望し、その実現に向けて奔走した中から生み出された施設の先駆けである。きっかけは、1973(昭和48)年6月から2回、金沢大学付属養護学校で開かれた保護者の勉強会で、初回のテーマは「障害児の卒業後の居場所づくり」だった。同校元教員の森下富士夫さんによると、「勉強会の背景には、1979(同54)年から始まる養護学校義務化への期待と不安があった」と振り返る。

義務化は、それまで自宅で過ごすケースが大半の重度障害児に教育の機会を与える半面、卒業後の居場所までは規定していない。既設の施設には空きがほとんどなく、結果、重度障害児は学校を終えると、事実上、再び自宅に戻るしかなかった。

勉強会は同校の野市源朝教頭がリードし、毎回夜遅くまで熱を帯びた。参加者の一人の寺窪藤子さんは、「卒業後も、わが子がずっと笑顔でいられるような場所を何としてもつくりたい。その一心だった」と懐かしむ。

模型を持参し、知事に陳情

1974(昭和49)年7月には、保護者有志で卒業後の重度障害者を受け入れる福祉施設の建設予定地を金沢市角間地区に購入した。また、金沢市精神薄弱者育成会(現金沢手をつなぐ親の会)との連携も図った。その意図について、運動に深く関わった保護者の一人、浅田和子さんは「同じ志を持つ多くの人と協力して運動を前に進めたいという思いがあった」と語る。

活動の輪が徐々に広がる中、1978(同53)年、同育成会など8つの団体で「精神薄弱者施設(ミニコロニー)建設促進委員会」が結成され、さまざまな障害者を一カ所でケアする全国の福祉施設の見学、調査を行った。

同委員会では、金沢市内に入所施設のほかに授産施設、寮、農作業場などを一般住宅と一体化して設

置する総合的な福祉ゾーンづくりを目指し、行政や議会への働きかけを強めた。金沢市へは同市議も務める喜多美由喜・同育成会長が、県へは土用下欽子県議が橋渡し役となり、「心身障害者ニュータウン建設についての請願」をそれぞれ提出した。また、1980(同55)年3月、県庁に中西陽一知事を訪ね、ニュータウンの模型を持参して建設を訴えた。

その後、金沢市全体を福祉都市として位置づけ、その核となる「心身障害者自立訓練センター」の設置に請願を変更し、県議会、市議会に再提出した。和子さんの夫で、同委員会委員長を務めた浅田平七さんは、「議会の傍聴席は採択を待ち焦がれる保護者で埋まった。入りきれず、議会の階段まで人があふれた」と回想する。地道だが熱量に満ちた活動がついに実り、県議会は1981(同56)年6月、市議会は同9月の定例会で、請願を採択した。

全員が「自分ごと」で運動

運動はここからさらに加速する。自立訓練センター設立のために、県精神薄弱者育成会と市精神薄弱者育成会では基金とする1000万円を募ることにした。「全員が自分ごとと捉えて動いた」と瀬戸三重子さんが話すように、保護者たちは手作りした募金箱を銭湯や郵便局を回って置いてもらい、バザーの売り上げも寄付した。養護学校の募金箱にも、保護者が



心身障害者ニュータウンの模型を囲み、夢を語り合う保護者たち(1980(昭和55)年3月4日夕刊掲載・北國新聞社提供)

子どもに持たせた小銭が毎日のように入れられた。そんな献身や篤志もあり、募金開始から1年4か月後の1983(昭和58)年3月、目標額に達した。集まった募金は、法人設立にあたって法人の基本財産100万円、運用財産900万円として寄付された。

行政もこれに応えた。1982(同57)年6月、市が栗崎地区で用地の造成を、県が施設の建設を行うことを正式決定し、工事に着工した。法人の設立認可申請や職員募集にも惜しみなく協力した。

1984(同59)年1月、国から社会福祉法人アカシヤの里の設立認可が下りた。初代理事長には運動の中心的役割を果たした喜多美由喜・県育成会会長が就いた。施設長、事務長には、県・市のOBが就任し、施設運営の実務を担った。

同年7月の竣工式には、この日を感じ無量の気持ちで迎えた保護者も多数参加した。亀田志津枝さんは、「自分の子どもが入れなくても心配はなかった。この運動で得た経験を次に生かせばいいと思ったから」と回顧する。

実際、浅田さん夫妻をはじめアカシヤの里設立に関わった保護者が核となり、その後、次々と入所施設や通所施設が開設されていく。その原点は、いずれもアカシヤの里であった。

<お話を伺った方>(50音順)

- 浅田 平七さん (社福)アカシヤの里元理事・監事、(社福)やちぐさ会理事長
- 浅田 和子さん (社福)やちぐさ会次長
- 亀田志津枝さん (社福)金沢手をつなぐ親の会評議員
- 瀬戸三重子さん (社福)アカシヤの里元評議員、アカシヤの里保護者会役員
- 寺窪 藤子さん (社福)アカシヤの里元評議員
- 森下富士夫さん (社福)アカシヤの里評議員、元金沢大学付属養護学校教員



喜多美由喜理事長を囲んで記念写真に収まるアカシヤの里の職員たち=1984年(昭和59)年7月の竣工式

アカシヤの里 開所までの経緯

年	月	事項
1973(昭和48)	6	金沢大学付属養護学校で保護者の勉強会が始まる
1974(昭和49)	7	保護者有志が金沢市角間地区で福祉施設の建設予定地を購入
1978(昭和53)	11	金沢市精神薄弱者育成会など8団体が「精神薄弱者施設(ミニコロニー)建設促進委員会」を結成
1980(昭和55)	3	建設促進委員会が県へ「心身障害者ニュータウン建設についての請願」を提出
1981(昭和56)	6	建設促進委員会が県へ「心身障害者自立訓練センター設置に関する請願」を提出、県議会で採択
	9	建設促進委員会が金沢市へ「心身障害者自立訓練センター設置に関する請願」を提出、市議会で採択
	11	全県下障害者団体が加入して「自立訓練センター建設促進協議会」に改組、市に建設用地の提供を要望
1982(昭和57)	6	県と市の精神薄弱者育成会が連名で、心身障害者自立訓練センター設立に向けた1000万円募金を開始
	6	市が土地を提供し、県が施設を建設、運営は社会福祉法人を設立し、県から委託することが決定
1983(昭和58)	8	金沢市が栗崎地区に用地造成
	9	石川県が施設建設に着工
1984(昭和59)	1	「社会福祉法人アカシヤの里」設立認可
	7	竣工式
	8	精神薄弱者更生施設「石川県立自立訓練センターアカシヤの里」開所

平均年齢24.2歳と19.8歳

3カ月の実地研修で現場配属

1984(昭和59)年8月1日、「石川県立自立訓練センターアカシヤの里」は開所の日を迎えた。職員数は島村重夫施設長以下24人、うち16人が指導員だった。その平均年齢は24.2歳。彼らの多くが福祉系の大学や短大、専門学校を卒業して間もなかったため、4月16日の採用から3カ月間、金沢市内の精神薄弱者更生施設で実地研修を受けながら支援のノウハウを身につけスタートに備えた。

一方、入所者も養護学校の卒業後、自宅で過ごしたり、授産施設に通所したりする若者が大半を占めた。中には、病院に入院中や養護学校の卒業を待たず入所した人もいて、開所日に顔をそろえた15人の平均年齢はわずか19.8歳。指導員と入所者は、年の近い兄弟姉妹のような関係で日々、接していたと言える。

一人ひとりに寄り添う支援へ

入所者が施設で過ごすルールや1日のスケジュールは、指導員が実地研修の経験を元に話し合っただけで決めた。福島明男・アカシヤの里参事は「研修先で得た知識を皆で持ち寄り、何とか運営している感じだった」と振り返る。入所者が施設での生活に慣れることと、指導員にも無理なく支援のスキルを上げてもらう配慮から段階的に入所者を増やし、定員の50人にほぼ達したのは1986(同61)年4月だった。

アカシヤの里は、知的障害者が自立して地域で暮らせるよう支援や訓練をするための精神薄弱者更生施設という位置づけであり、入所者は当時、訓練生と呼ばれた。訓練生は学習支援や職業訓練、機能訓練を受け、入所3年程度で退所し、地域で社会生活を送ることを目指した。

しかし、入所者の多くが重度や最重度の知的障害者であり、現実は厳しかった。このため、「社会での自立を一律にゴールとせず、例えば『歯磨きができたら自立の一步』など、個々に応じて目標を変え

た」と澤口光治・グループホーム所長。そして、1986(同61)年4月から毎月、保護者の元に手書きの「アカシヤの日々」を届け、気にかかるわが子の様子をこまめに知らせた。

スポーツや旅行などで楽しく

同時に、力を入れたのが運動会や球技大会、マラソン大会など身体を動かす訓練や、旅行や花見などのイベントである。特に、施設には全国で初めてソーラーシステムを導入した自慢の温水プールがあり、1年を通して水泳を訓練に取り入れることができた。また、1986(同61)年に始めた親子一泊旅行は、恒例行事として1999(平成11)年まで続いた。第1回は金沢市のキゴ山少年自然の家へ、入所者と保護者、指導員が大型バス3台を連ねて出かけ、はしゃいだ声と和やかな空気に包まれた。

點田孝之・アカシヤの里施設長と川畑日出二・総合支援部統括は、「苦労も多かったが、弟や妹のような年齢の入所者と一緒にスポーツをしたり、鍋を囲んで笑い合ったり、毎日を楽しく充実して過ごすことができた」と、青春のアルバムを大切にめくるように回想する。



一緒に盆踊りを楽しむ入所者と職員 = 1985(昭和60)年8月

経営改善に向けて舵を切る

「公立民営」のままでは赤字に

アカシヤの里は開所以来、県から運営の委託を受ける「公立民営」の施設として、人件費や施設運営にかかる費用を県からの委託料(年間約1億7000万円)で賄ってきた。しかし、委託料には職員の昇給や施設の修繕費用が反映されないことから、開所15年目となる1998(平成10)年度の収支決算で初めての赤字となり、翌年度以降も赤字が避けられない状況が見通された。

そこでアカシヤの里では経営改善に向け、法人独自の運営(民営化)を選択肢に県と協議を開始した。その理由として、民営化によって職員の昇給財源等に充てる「民間施設給与等改善費(民改費)」が加算され(当時試算で年間約1500万円)、経常収支の改善が図れること、また、県との委託契約の締結や予算協議といった事務を簡略化でき、業務効率化にもつながることがあった。

法改正で利用者に選択権

県と民営化への協議を進めていた2000(同12)年、福祉関連の法律が一挙に改正される「社会福祉基礎構造改革」が行われ、障害者福祉のあり方も大きく転換した。

障害者が利用するサービスや施設を行政が決定する従来の「措置制度」から、障害者が自らの意思でサービス等を選択し、支援費を受ける「支援費制度」に変わったのである。

民営化へのカウントダウン

県との協議で、アカシヤの里の民営化は、支援費制度が始まる2003(同15)年度以降に実施することになった。そして、県は民営化を前に2001(同13)年度、車庫の新設や老朽化した冷房機器、厨房機器等を更新する大規模修繕(約7000万円)を実施してくれた。

さらに、県は支援費制度スタートの2003(同15)年度を民営化に向けた試行期間とし、支援費を直接、法人の収入とする「利用料金制度」を導入した。その結果、支援費単価の見直しや民改費の加算により、前年度より約2500万円の増収となった。これにより、先延ばししてきた施設の修繕(約850万円)も行ったうえで、収支決算は1000万円以上の黒字を計上することができた。

選ばれ続ける施設であるために

施設が20周年を迎えた2004(同16)年、アカシヤの里は県から建物、市から土地を借り受けて法人が運営する完全民営化が実現した。支援費制度での完全民営化は増収をもたらす一方、今後は施設の大規模修繕も法人が行うことになるなど、将来にわたって厳しい競争や環境にさらされることも意味した。

このため、法人が経営感覚を磨いてコスト意識を徹底するとともに、利用者から常に選ばれ続ける質の高いサービスの提供に向けた決意を新たにする契機。そのスタートが、2004(同16)年の完全民営化でもあった。



創立20周年記念式典であいさつをする寺島笑子理事長 = 2004(平成16)年8月

全居室個室化実現へのハードル

将来構想で居住環境改善を計画

2020(令和2)年3月、女子居住棟の全面改築が竣工し、2年前、先行して新築した男子居住棟に続き、入所者の居室すべての個室化が実現した。この工事に要した費用は約4億7300万円に上った。もちろん、法人の自己資金だけでは賅えず、国と金沢市の補助金を得るためには土地・建物の自己所有化というハードルがあった。

アカシヤの里では、2006(平成18)年に施行された障害者自立支援法を受けて、法人と保護者で検討委員会を設置し、2011(同23)年2月、利用者の高齢化と障害の重度化、施設の老朽化を見すえた「アカシヤの里将来構想」を策定した。将来構想では、従来の入所更生施設としての事業を日中の「生活介護」と夜間の「施設入所支援」に分ける新体系サービスへの移行のほか、グループホームの設置や居住棟の大規模改修などが計画された。

土地・建物の買い取り要請

2013(同25)年1月、「居住環境等改善検討委員会」が設置され、居住棟の大規模改修の検討が始まった。アカシヤの里では、開所時の設置基準(一人当たり居室床面積3.3平方メートル以上)に従い、12畳の和室に4人が暮らす状態が続いていた。しかし、2006(同18)年、基準が同9.9平方メートル以上へと改正され、利用者のプライバシー保護、感染症対策等の観点からも個室化を検討することにした。

ただ、新しい設置基準を満たすには既存の男子居住棟、女子居住棟の改築では足りず、男子居住棟を新築し、女子居住棟は既存の男子・女子居住棟を全面改築して整備する以外になかった。金沢市からは「新基準に適合させるための居住棟の増築・改築は国庫補助の対象になる」との回答の一方、開所以来、市が無償で貸し付けてきた土地の買い取りを強く求められた。

「もし断れば、今後、女子居住棟の改築やグルー

プホームの新築に際しての国庫補助も厳しくなる可能性がある」。法人としては、将来構想を着実に具現化するには行政との連携が不可欠であることから、土地の購入の断を下した。その後、県からも建物の買い取り要請があり、県有財産である女子居住棟の改築に法人の資金を注ぐことの是非からも、自己所有化に踏み切ることにした。

そして、不動産鑑定士の評価等を経て、土地代9700万円、建物・設備代2200万円の大半を(独法)福祉医療機構からの借入金で充て、2019(同31)年1月、取得手続きを終えた。

個室化で利用者の行動に変化

個室化によって、利用者は部屋にぬいぐるみを飾ったり、好きな雑誌を見たりして、ゆったりと過ごす光景が日常となった。さらに、体調不良時にも静かに休めるなど落ち着いて生活できるようになり、利用者間のトラブルが減るといった変化も生まれている。

描いた将来構想の青写真に沿って打った自己所有化の布石は、利用者が安全で心地よく過ごす施設整備を今日まで進めるための礎石として輝きを放っている。



お気に入りのぬいぐるみを飾った個室で、思い思いの時間を過ごす

利用者の健康と安全を第一に

集団感染を総力戦で乗り切る

2020(令和2)年、世界をパニックに陥れた新型コロナウイルス感染症の流行が始まった。アカシヤの里ではマスク着用が難しい利用者が多く、いったん感染者が発生すると集団感染になる恐れが大きかった。そのため、利用者には流行時期に合わせて、外出、帰省の制限と解除を繰り返さざるを得なかった。その不便や寂しい思いを少しでも和らげられるよう、家族とのオンライン面会を実施した。

また、職員は、県立中央病院の医師、感染管理認定看護師による研修会や法人の感染症対策委員会をたびたび開き、感染対策マニュアルに基づく感染予防と発生時対策の徹底を図った。

翌年7月から家族の同意を得て、金沢市の巡回接種班によるワクチン接種を始めた。幸い、2023(令和5)年5月の5類移行まで平穏に推移したものの、同年8月19日から9月3日にかけて利用者40人、職員17人の集団感染が発生した。

主な症状は38度台の発熱や咽頭痛で、解熱鎮痛薬の投与により大半が1、2日で快方に向かい、軽症で治まった。利用者には活動を中止してできるだけ自宅で過ごしてもらうとともに、職員は研修の成果を活かし、ゾーニングや介助時の防護服着用等を徹底した総力戦のおかげで、9月上旬でクラスター収束を見ることができた。



新型コロナウイルスワクチンの予防接種は、2023(令和5)年12月まで7回実施した

被災地の入所者4人を受け入れ

2024(令和6)年元日に起きた最大震度7の能登半島地震では、施設の屋根瓦と天井板の一部破損、壁に亀裂が入ったものの、利用者や職員に人的な被害はなかった。一方、奥能登では深刻な建物被害や断水に見舞われた障害者施設が複数あり、アカシヤの里では早速、被災地の障害者受け入れも想定した情報収集と準備に取りかかった。現在の入所者の支援に支障をきたさないことを優先し、アカシヤの里の施設・マンパワーで受け入れが可能な人数を最大5人とした。

1月下旬、穴水町にある障害者支援施設「石川県精育園」から入所者受け入れについて問い合わせがあった。先方の職員と、障害の特性や体調、支援時の注意事項などをすり合わせた上で、40～60代の男性、女性各2人の入所者を受け入れることとした。

3月18日の受け入れ後、4人はアカシヤの里の入所者と一緒に活動するなど、新しい環境に支障なくなじんでいる。地震後、精育園でかなわなかった面会が実現し、落ち着いて個室で過ごす様子に思わず涙する家族もいた。

アカシヤの里では今回の能登半島地震を機に、金沢で同規模の地震が発生した場合を想定し、3月に策定した「自然災害発生時における業務継続計画」の研修・訓練を行い、利用者の安全をさらに高める体制を強固にしている。



能登半島地震で被災した石川県精育園から到着した入所者 = 2024(令和6)年3月18日

桜 梅 桃 李

～アカシヤの日々～

※“桜梅桃李”とは、それぞれがオンリーワンの花を咲かせるように、他人と比べることなく、自分らしく生きることの大切さを表した言葉です

社会福祉法人アカシヤの里が運営する「障害者支援施設アカシヤの里」「グループホームアカシヤ寮・さかえ寮」「相談支援事業所アカシヤの里」では、利用者が日々、自分らしくいきいきと過ごしています。

● 障害者支援施設アカシヤの里

〈生活介護(定員50人)、施設入所支援(定員50人)、短期入所(定員2人)〉

主に知的障害がある人が、自立した日常生活や社会生活を送ることができるよう、食事や入浴などの生活介助、創作活動や生産活動、身体機能向上のための活動をサポートしています。

朝 礼

利用者が司会を務め、その日の活動内容や通院の予定などを伝えます。その後、ラジオ体操で体を動かして、一日がスタートします。



「おはようございます」の元気なあいさつから朝礼が始まります



体を伸ばして新鮮な空気を胸いっぱい吸い、すがすがしい気持ちに

一日のスケジュール

6:30	起床
7:30	朝食
8:30	職員朝礼
8:45	利用者朝礼
	身支度
9:30	日中活動
11:30	昼食・休憩
13:30	日中活動(月・火・木)
	各種活動(水)
	運動活動(金)
15:30	入浴(月・水・金)
	余暇
18:00	夕食
	余暇
21:00	就床

日中活動

利用者は日中、「生活」「作業」「外注」の各グループに分かれて活動を行います。

生活グループ

ブロックや塗り絵など利用者が興味を持てる活動で思い思いに時間を過ごします。



作業グループ

貼り絵やジグソーパズルのほか、ペグ差しなど指先の訓練にも取り組みます。



外注グループ

細かな作業が得意な利用者は、企業から請け負ったタオル折りや空き缶つぶして工賃を受け取ります。



外注グループの作業室では音楽を流しています。利用者が好きな80年代ポップスのCDがずらりと棚に並んでいます

各種活動

各種活動では日中活動と違うグループで、カラオケや創作活動、茶話会などを楽しみます。



運動活動

サッカーやボウリング、輪投げなどで楽しく体を動かし、体力の維持に努めています。



食事

食事は利用者の大きな楽しみの一つであり、食への興味や意欲を引き出すことを大切にしています。料理は味や彩りに気を配り、季節の食材を積極的に使うとともに、一人ひとりの健康状態に合わせて栄養バランスに配慮しています。利用者の飲み込む力によって食材の刻み方も変え、ペースト状にする場合もあります。



利用者に人気の揚げ物も、すべて施設内の厨房で調理します



この日の「敬老の日お祝い御膳」のメインは赤飯と治部煮。おいしさに箸が止まりません

「支えるチカラ」② 日清医療食品

食で健康と笑顔をつくる

アカシヤの里の管理栄養士と綿密にすり合わせて日々のメニューを決め、調理の現場をあずかっているのが(株)日清医療食品のスタッフです。

利用者の高齢化が進む中、骨粗しょう症やフレイル（虚弱）予防の観点から、カルシウムやタンパク質などの栄養素をしっかりと摂取できるよう心がけています。

また、利用者が楽しみにしている季節ごとのバイキングやメイン料理を選べる「お楽しみ献立」（毎週水曜）にも力を入れています。

食事はカウンター越しに利用者一人ひとりの顔を見ながら提供するスタイルで、「食器返却のときに皆さんがかけてくれる『おいしかったよ』のひと言がうれしい」と丹羽麻菜美チーフが話すように、心を込めた一品一品が利用者の健康と笑顔をつくっています。



クリスマスバイキングでは、ツリーやリースが飾り付けられた食堂で食事を楽しめます



エビフライやグリルチキン、プチケーキなど人気のクリスマスメニュー

利用者の活動を支える車両

利用者の外出や通院、自宅への送迎などの際は、25人が乗れるマイクロバスや車椅子のまま乗れる車など9台が活躍しています。うち3台は保護者会からの寄贈などによるものです。



「支えるチカラ」① アカシヤの里保護者会

利用者の家族で組織するアカシヤの里保護者会は、開所以来、法人と車の両輪のような関係で積極的に運営に関わっています。具体的には、役員が法人の理事や評議員に就き、運営に参画するとともに、2011（平成23）年策定の「アカシヤの里将来構想」でも、検討委員として、サービスの再編や個室化に向けて意見を交わしました。

コロナ禍前は、わが子や施設の様子を知り、親同士が交流する場として保護者会を隔月に開くとともに、アカシヤの里まつりでバザーを担当するなど、行事には協力を惜しまず参加してきました。

法人と両輪で運営の力に

また、利用者の暮らしがより快適に、より充実したものになるようにと、現金や車両、テレビ、教材、運動用具、ステージの緞帳^{どんちょう}などの寄付も継続的に行っています。

保護者個人からも、現金のほかAED（自動体外式除細動器）の寄贈や、外注グループの空き缶つぶし作業に必要なアルミ缶をいつも用意してくれています。

戸張悦子副会長は、「保護者会は親同士が交流し、『親なきあと』への備えを学ぶことができるなど、とても大切な会です。これからもわが子だけでなく、アカシヤの利用者全員が安心して過ごせるよう、力を尽くしたい」と話します。



カウンターで日清医療食品のスタッフから直接、料理を受け取ります

健康管理

医務室では、看護師3人が日々の健康観察や医療処置、服薬管理などを行っています。利用者の高齢化が進む中、体調の変化を的確に把握し、必要な場合は速やかな受診につなげます。

また、年2回の健康診断、年1回の歯科検診の結果、治療が必要な場合は嘱託医などによる定期診察を受けます。さらに、希望者はインフルエンザや新型コロナウイルス感染症のワクチンも接種し、健康の維持に細心の注意を払っています。



嘱託医は病気のサインを見落とさないよう、本人や職員から体調をよく聞きながら診察を進めます



利用者ごとに薬の種類や量、飲むタイミングが異なり、職員がしっかり管理しています

「支えるチカラ」③

嘱託医 齋藤麗奈医師

嘱託医として毎月、利用者の診察を行う金澤なかでクリニックの齋藤麗奈院長は、絶えず優しい笑顔で利用者に接し、体重減少や食欲不振などの変化がないかも職員に尋ねながら、新たな病気の有無や持病の進行、体調などを見極めていきます。

齋藤院長は「コミュニケーションがうまく取れない人もいますので、一人ひとりの表情を見て何を考えていらっしゃるかを理解することを大切にしています。皆さんの笑顔が見られることが一番のやりが

チームワークで健康を守る

いです」と話します。

アカシヤの里の看護師と密に情報交換しており、利用者が急に体調を崩した際も滞りなく対応できる体制が整っています。複数科の処方を受ける利用者も少なくない中で、「アカシヤの里のスタッフが服薬管理や各医院への通院介助をしてくださることに感謝します」と齋藤院長。

こうしたチームワークが、利用者の健やかな生活に欠かせないものとなっています。

入浴

2023(令和5)年8月に完成した特別浴室には、専用の車イスに座ったまま移動、洗身、入浴が可能な特殊浴槽を設置し、利用者の安全で快適な入浴と職員の負担軽減が実現しました。



特殊浴槽はジャグジー機能も備えています

訪問理容

毎月一度のヘアカットは、地域の理容師・美容師のサポートで1993(平成5)年から続いています。髪型がさっぱりすると利用者の表情も明るくなります。



「支えるチカラ」④

訪問理容師・美容師

田中訓さん 岡田暁さん 川島直彦さん 大谷渉さん

利用者にとって毎月の散髪も楽しみのひとつです。現在、理容師・美容師4人が、店の定休日の月曜を利用してアカシヤの里を訪問しています。長い人だと四半世紀を超え、利用者とはすっかり顔なじみの間柄です。

4人は、一人ひとりにどんな髪型がいいか希望を聞き、手際よくカットして髪を整えていきます。言葉でうまく意思を伝えられない利用者には、ハサミを髪にあてた時の表情の変化や仕草から気持

思いをくみ希望の髪型に

ちをくみ、その人に似合う髪型に仕上げます。1997(平成9)年から訪れている田中訓さんは、「長年、顔を合わせる中で少しずつ利用者の皆様の思いがくみ取れるようになりました」と話します。

同じキャリアを持つ岡田暁さんは、流行を取り入れた髪型を意識しているそうです。「本人の喜ぶ表情やご家族の声が励みになり、地域に役立っているとのやりがいを感じます」と、訪問理容を長年続ける理由を話します。



アカシヤの里の玄関では、利用者が月替わりで制作した作品が訪れる人を迎えます。春がテーマの作品(左)は、色紙をちぎって貼り付ける「ちぎり絵」で描いています。ハロウィンの作品(右)は、コウモリを黒い手形で、ガイコツを白い手形で表現しています

花見

花見は1985(昭和60)年から続く行事で、毎年、県内外の桜の名所を訪れて散策したり、芝生にシートを広げてお弁当を食べたりします。



心地よい陽気に恵まれ桜も満開＝石川県津幡町の県森林公園

納涼祭

利用者の家族も招いて行う納涼祭は、お気に入りの浴衣や甚平を着て参加します。やぐらを囲んで盆踊りをするほか、焼きソバやフライドポテトといった屋台メニューでお祭り気分を楽しみます。



2023(令和5)年の納涼祭はYOSAKOIソーランで盛り上がりました

アカシヤの里まつり

アカシヤの里まつりは、一年で最も盛大な秋の恒例行事です。利用者の家族や地域の方も参加し、ステージプログラムのほか飲食物の販売ブース、ゲームコーナーもあり、利用者の目も一段と輝きを増します。



公立小松大学ダンスサークルの皆さんの舞台では、飛び入り参加で一緒に踊り出す利用者も



飲食物ブースをお手伝いいただく栗崎ボランティアグループのメンバーから、チケットと引き換えに焼きソバなどを受け取る利用者



フィナーレは、利用者とスタッフが集合して歌とダンスで練習の成果を披露

「支えるチカラ」⑤

栗崎ボランティアグループ

アカシヤの里まつりを毎年サポートしてくれるのが、栗崎ボランティアグループの皆さんです。主に飲食ブースやゲームコーナーで運営をお手伝いいただき、利用者笑顔で交流する姿はアカシヤの里まつりですっきりおなじみの光景となっています。

メンバーは栗崎町に住む25人の主婦で、アカシヤの里との関わりは1996(平成8)年から。町

利用者の笑顔に元気づけられる

内の一人暮らしの高齢者への配食や道路沿いに設置された花壇の水やりなどに活躍する同グループにとって、「アカシヤの里まつりで皆さんに会うと、私達も元気をもらえる」と端野外喜子会長は話し、毎年イベント参加を楽しみにされています。

芋掘り

毎年10月、金沢西ライオンズクラブ主催のサツマイモ掘り体験があります。掘ったサツマイモはアカシヤの里の食事や天ぷらや大学イモなどで登場します。



ライオンズクラブのメンバーと楽しく会話しながら芋を掘り出します



収穫したサツマイモを持って記念撮影

「支えるチカラ」⑥

金沢西ライオンズクラブ

サツマイモ掘り体験は、利用者に収穫の喜びを感じてもらおうと金沢西ライオンズクラブが企画し、2006(平成18)年から続けています。同クラブがアカシヤの里近くで借り上げたサツマイモ畑で、例年100kg前後を収穫し、2023(令和5)年は160kgにもなりました。

同クラブの野村忠会長(第55代)は、「たくさん

収穫し、食べる喜び感じて

のサツマイモを掘って喜ぶ姿を見ると、企画して良かったと私達もうれしくなる」と話し、サツマイモは利用者の家族にもお裾分けしています。

同クラブとは1988(昭和63)年からの長いお付き合いで、施設外壁の壁掛け時計や木製ベンチなどの物品も寄贈いただいています。

秋の日帰り旅行

ふだん施設内で過ごす利用者にとって、バスで出かける日帰り旅行は心の弾むイベントです。秋が近づくと、「今年はどこに行くの」と職員に尋ねる利用者の姿が見られます。



のとじま水族館で、たくさんの魚と一緒に記念撮影

着ぐるみ人形劇

2017(平成29)年から着ぐるみ人形劇を行う「劇団バク」が毎年訪れて公演しています。コミカルな演技と感動的な物語に、利用者は夢中になります。



2023(令和5)年12月の公演では「みにくいアヒルの子」が演じられました

終演後は、翌年の再会を誓い、利用者一人ひとりとあいさつをしてお別れです

● グループホームアカシヤ寮・さかえ寮 〈共同生活援助(定員10人)〉

家庭的な雰囲気の中で、世話人が食事、入浴などの援助を行います。

利用者は日中会社で働いたり、アカシヤの里で活動したりしています。休日や自由な時間には、テレビやパズルなど思い思いに好きなことをして過ごしています。世話人と一緒に買い物に出かけ、自分の好きな日用品やおやつを選ぶほか、天気の良い日には散歩に出て、近所の公園でひなたぼっこを楽しむこともあります。



男性6人が暮らすアカシヤ寮で、お茶やお菓子を食べながら談笑のひとコマ

さかえ寮は3人の女性が共同生活を送っています

● 相談支援事業所アカシヤの里 〈計画相談支援〉

「福祉サービスをどうやったら利用できるか分からない」「家での生活を続けたいが、家事ができない」など、障害のある方や家族の悩みや思いに寄り添い、一緒に考えます。そして、希望する生活の実現に向けて、福祉サービスの紹介や、サービス利用に必要な「サービス等利用計画」を作成します。

計画に基づき、日中の通所先やグループホームなどの見学、契約手続きの支援のほか、ご本人や家族の状態・環境の変化に応じて、計画の定期的な見直しや市町・事業所との連絡調整を行います。



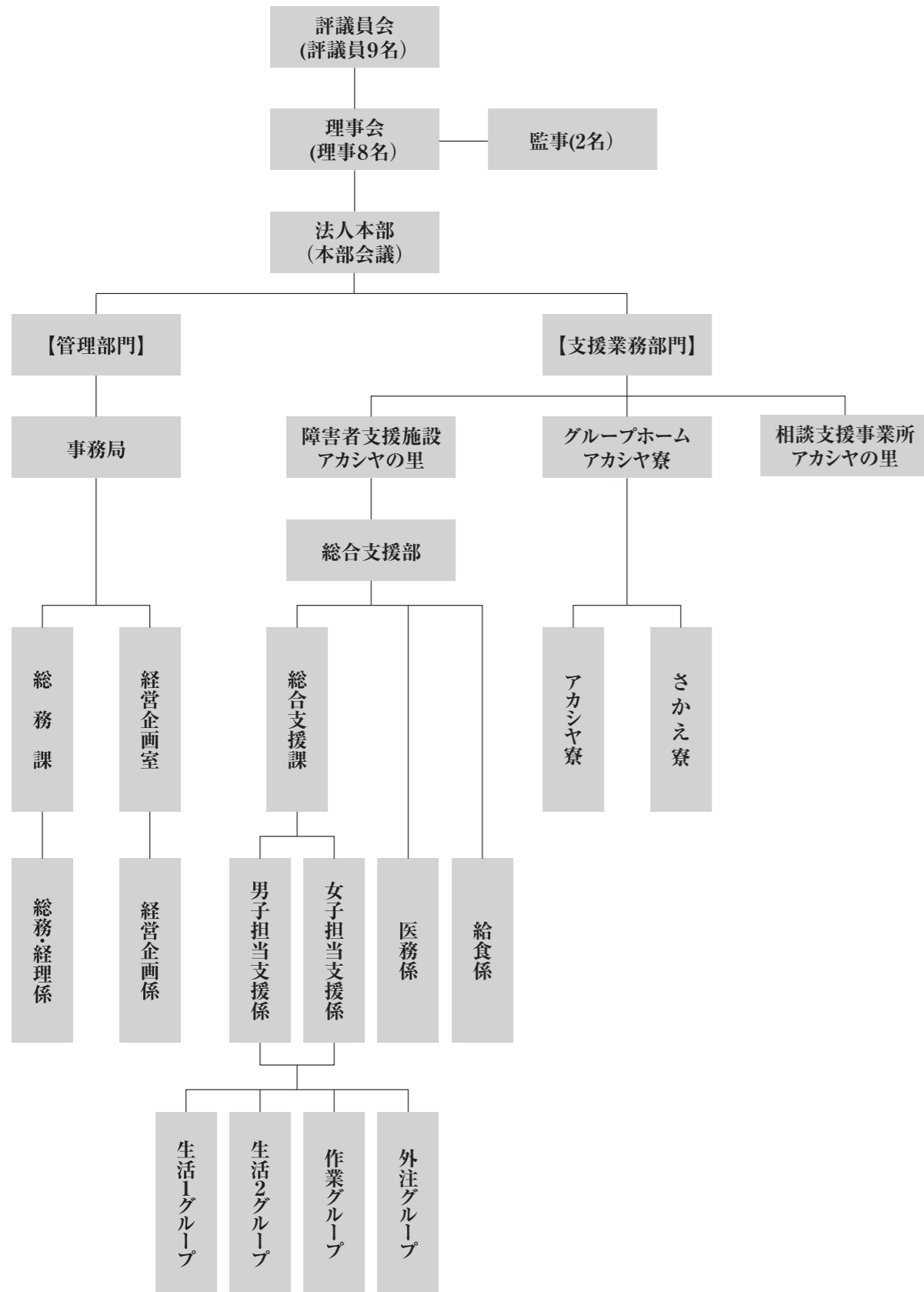
利用者と定期的に面談し、本人の意思に耳を傾けることを大切にしています

資料編

- 法人の概要 32
 - 組織図 32
 - 役員・歴代理事長・歴代施設長 33
 - 職員 34
- 利用者の状況 35
 - 利用定員 35
 - 利用状況 35
 - 障害者支援施設アカシヤの里
 - 年度別年齢構成 36
 - 年度別入退所状況 38
 - グループホームアカシヤ寮
 - 年度別年齢構成 40
 - 年度別入退所状況 42

● 法人の概要

組織図



役員 (令和6年4月1日現在)

理事長	杉村 佳津子	評議員	森下 富士夫
常務理事	點田 孝之		岡本 富子
業務執行理事	川畑 日出二		夷藤 和明
理事	大橋 和史		西尾 和喜雄
	西澤 寛一		蓑 高史
	高桑 幸夫		岡田 桂子
	亀井 修		永下 武二
	向井 俊一		戸張 悦子
			水岡 弘行
監事	後出 建司		
	浅田 秀章		

歴代理事長

喜多 美由喜	昭和59年 2月24日	—	平成 9年 9月16日
寺島 笑子	平成 9年 9月17日	—	平成18年 3月31日
松田 輝次	平成18年 4月 1日	—	平成24年 5月25日
林 正志 (施設長兼務)	平成24年 5月26日	—	平成29年 3月31日
水岡 弘行 (施設長兼務)	平成29年 4月 1日	—	令和 2年 3月31日
杉村 佳津子 (事務局長兼務)	令和 2年 4月 1日	—	現在

歴代施設長

島村 重夫	昭和59年 4月 1日	—	平成 9年 3月31日
松山 利和	平成 9年 4月 1日	—	平成15年 3月31日
杉本 一省	平成15年 4月 1日	—	平成17年 3月31日
林 正信	平成17年 4月 1日	—	平成23年 3月31日
林 正志	平成23年 4月 1日	—	平成29年 3月31日
水岡 弘行	平成29年 4月 1日	—	令和 2年 3月31日
澤口 光治	令和 2年 4月 1日	—	令和 4年 3月31日
點田 孝之	令和 4年 4月 1日	—	現在

職員(令和6年4月1日現在)

【障害者支援施設アカシヤの里】

施設長(常務理事) 點田孝之
 総合支援部統括(業務執行理事) 川畑日出二
 参事 福島明男
 総合支援課長 山田駿介
 総合支援課長補佐 山崎奈津子
 総合支援係長 寺岸利花
 〃 山本一恵
 〃 瀧本隆敏
 主任(支援員) 宝達尚也
 〃 小笠原真紀
 〃 小泉千春
 副主任(支援員) 北麻衣
 〃 東貴裕
 〃 舞島雄太郎
 支援員 水口汐里
 〃 勝山瑛斗
 〃 中嶋秀一
 〃 坂尻誠
 〃 廣瀬恵美子
 〃 梶恵樹
 〃 権谷拓己
 〃 酒井真梨
 医務係長 松井諭
 看護師 寺井美穂
 給食係長 栗田志麻

【グループホームアカシヤ寮】

所長 澤口光治
 副主任(世話人) 寺島真吾
 支援員 武部智

【相談支援事業所アカシヤの里】

所長 西川佳美
 相談支援専門員(施設兼務) 富田隆一

【管理部門】

事務局長(理事長) 杉村佳津子
 経営企画室長 松本伸男
 総務担当課長 細野真平
 総務係長 宮本真紀子
 副主任(事務員) 川畑朔良
 事務員 一塚剛史

この他、支援員補助等(嘱託・臨時職員)27名

●利用者の状況

利用定員

施設入所支援 50人、生活介護 50人、短期入所 2人
 共同生活援助 10人(男性 6人、女性 4人)

利用状況(令和6年4月1日現在)

(1) 利用者数

(単位:人)

区分	アカシヤの里入所者			アカシヤの里通所者			グループホーム入居者			合計			
	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	全体	男性	女性	
サービス	施設入所支援	52	32	20						52	32	20	
	生活介護	52	32	20	1	1		8	5	3	61	38	23
	短期入所				1	1					1	1	0
	共同生活援助							9	6	3	9	6	3

※アカシヤの里入所者には能登半島地震被災者4人受け入れ含む

(2) 年齢構成、障害支援区分等

区分	アカシヤの里入所者	アカシヤの里通所者	グループホーム入居者
平均年齢	53.6歳	58.0歳	60.3歳
うち50歳以上	76.9%	100.0%	88.9%
平均障害支援区分	5.6	4.0	3.8
平均利用年数	26.2年	7.4年	16.1年
うち30年以上	57.7%	0.0%	11.1%

<詳細内訳>(通所者除く)

区分	アカシヤの里入所者						グループホーム入居者					
	全体(52人)		男性(32人)		女性(20人)		全体(9人)		男性(6人)		女性(3人)	
平均年齢	53.6歳		50.6歳		58.4歳		60.3歳		57.3歳		66.3歳	
年代	20代	1人 1.9%	1人 3.1%									
	30代	6人 11.5%	5人 15.6%	1人 5.0%		1人 11.1%	1人 16.7%					
	40代	5人 9.6%	5人 15.6%									
	50代	30人 57.7%	18人 56.3%	12人 60.0%	3人 33.3%	2人 33.3%	1人 33.3%					
	60代	8人 15.4%	3人 9.4%	5人 25.0%	4人 44.4%	3人 50.0%	1人 33.3%					
	70代	2人 3.8%		2人 10.0%	1人 11.1%		1人 33.3%					
平均障害支援区分	5.6		5.5		5.8		3.8		2.8		5.7	
障害支援区分	なし						1人 11.1%	1人 16.7%				
	1						1人 11.1%	1人 16.7%				
	2						2人 22.2%	2人 33.3%				
	3						1人 11.1%	1人 16.7%				
	4	3人 5.8%	3人 9.4%				1人 11.1%	1人 16.7%				
	5	13人 25.0%	9人 28.1%	4人 20.0%	2人 22.2%	1人 16.7%	1人 33.3%					
6	36人 69.2%	20人 62.5%	16人 80.0%	2人 22.2%		2人 66.7%						
平均利用年数	26.2年		24.7年		28.5年		16.1年		19.3年		9.7年	
利用年数	10年未満	9人 17.3%	5人 15.6%	4人 20.0%	1人 11.1%		1人 11.1%			1人 33.3%		
	10~19年	11人 21.2%	9人 28.1%	2人 10.0%	6人 66.7%	4人 66.7%	2人 66.7%					
	20~29年	2人 3.8%	2人 6.3%		1人 11.1%	1人 16.7%						
	30年以上	30人 57.7%	16人 50.0%	14人 70.0%	1人 11.1%	1人 16.7%						

※四捨五入の関係で、積み上げた数値とその合計値は必ずしも一致しない

障害者支援施設アカシヤの里 年度別年齢構成

(昭和59年度は8月1日・他は4月1日現在、単位:人)

年度	性別	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計	平均(歳)
昭和59	男	2	5	1					8	19.8
	女	4	3						7	
	計	6	8	1	0	0	0	0	15	
60	男	4	8	2					14	22.8
	女	11	10	1	1	1			24	
	計	15	18	3	1	1	0	0	38	
61	男	5	10	3	1				19	23.7
	女	13	14	1	1	1			30	
	計	18	24	4	2	1	0	0	49	
62	男	7	18	2	2				29	24.8
	女	2	15	1	1	1			20	
	計	9	33	3	3	1	0	0	49	
63	男	2	22	2	3				29	25.4
	女	1	15	2	1	1			20	
	計	3	37	4	4	1	0	0	49	
平成元	男	1	24	2	1	1			29	26.2
	女		16	2	2	1			21	
	計	1	40	4	3	2	0	0	50	
2	男	2	22	3	1	1			29	27.0
	女		16	1	2	1			20	
	計	2	38	4	3	2	0	0	49	
3	男		22	4	1				27	27.5
	女		13	2	2	1			18	
	計	0	35	6	3	1	0	0	45	
4	男	2	22	7	2				33	28.2
	女		13	1	2	1			17	
	計	2	35	8	4	1	0	0	50	
5	男	2	22	7	2				33	29.2
	女		13	1	2	1			17	
	計	2	35	8	4	1	0	0	50	
6	男	2	20	6	2				30	30.2
	女	1	11	5	2		1		20	
	計	3	31	11	4	0	1	0	50	
7	男		22	6	2				30	31.2
	女		5	12	1	1	1		20	
	計	0	27	18	3	1	1	0	50	
8	男		17	10	2				29	32.2
	女		5	12	2	1	1		21	
	計	0	22	22	4	1	1	0	50	
9	男		14	14		2			30	32.5
	女		2	15	1	1	1		20	
	計	0	16	29	1	3	1	0	50	
10	男	1	9	18	1	1			30	32.9
	女		1	15	2	1	1		20	
	計	1	10	33	3	2	1	0	50	
11	男	1	7	20	1	1			30	34.0
	女			15	3	1	1		20	
	計	1	7	35	4	2	1	0	50	
12	男	1	7	20	1	1			30	34.2
	女			15	2	2	1		20	
	計	1	7	35	3	3	1	0	50	
13	男		7	20	2	1			30	35.0
	女			14	3	2	1		20	
	計	0	7	34	5	3	1	0	50	
14	男		5	21	3	1			30	37.0
	女			13	4	2	1		20	
	計	0	5	34	7	3	1	0	50	
15	男		4	22	3	1			30	38.0
	女			12	4	3	1		20	
	計	0	4	34	7	4	1	0	50	

年度	性別	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計	平均(歳)
16	男	0	4	20	5	1			30	39.1
	女			11	4	3	1		19	
17	男	1	1	20	7	1			30	39.8
	女			8	7	3	1	1	20	
18	男		3	18	8	1			30	40.7
	女			4	11	3	1	1	20	
19	男		5	12	12		1		30	40.7
	女			12	27	3	2	1	20	
20	男		6	7	15	1	1		30	41.3
	女			7	30	4	2	1	20	
21	男		7	6	15	1	1		30	41.9
	女			6	30	4	2	1	20	
22	男		6	6	15	2	1		30	43.3
	女			6	30	4	3	1	20	
23	男		5	5	17	2	1		30	44.3
	女			5	31	5	3	1	20	
24	男		5	4	18	2	1		30	45.3
	女			4	13	4	2	1	20	
25	男		5	3	19	2	1		30	46.3
	女			3	32	5	4	1	20	
26	男		4	4	18	3	1		30	46.3
	女			4	12	4	2	1	20	
27	男		5	2	17	4	1		29	46.5
	女			2	9	6	1	2	19	
28	男		3	4	15	6	1		29	47.5
	女			4	20	16	2	2	48	
29	男	1	2	5	12	9		1	30	47.9
	女		1	5	12	15	1	2	19	
30	男	1	1	6	8	13		1	30	48.9
	女		1	6	8	15	1	2	19	
令和元	男		2	5	8	14		1	30	49.8
	女		1	5	8	14	1	2	18	
2	男		2	5	8	13	1	1	30	50.9
	女			1	15	15	1	2	19	
3	男		2	4	7	15	1	1	30	51.9
	女			1	14	2	2	2	19	
4	男		2	4	6	16	1	1	30	52.9
	女			1	13	3	2	2	19	
5	男		2	4	4	18	1		29	53.4
	女			1	13	2	3	3	19	
6	男		1	5	5	18	3		32	53.6
	女			1	5	12	5	2	20	

障害者支援施設アカシヤの里 年度別入退所状況

(単位:人)

年度	性別	入所者数	退所者数	退所理由					年度末 在所者数
				家庭復帰	入院	他の施設入所	グループホームへ	その他(死亡)	
昭和59	男	15							15
	女	16	1	1					15
	計	31	1	1	0	0	0	0	30
60	男	11							26
	女	5	1			1			19
	計	16	1	0	0	1	0	0	45
61	男	5	2					2	29
	女	1							20
	計	6	2	0	0	0	0	2	49
62	男	1	1		1				29
	女								20
	計	1	1	0	1	0	0	0	49
63	男	1							30
	女								20
	計	1	0	0	0	0	0	0	50
平成元	男	2	3	1	1	1			29
	女								20
	計	2	3	1	1	1	0	0	49
2	男	2	6				4	2	25
	女								20
	計	2	6	0	0	0	4	2	45
3	男	5							30
	女								20
	計	5	0	0	0	0	0	0	50
4	男		1				1		29
	女								20
	計	0	1	0	0	0	1	0	49
5	男	1							30
	女								20
	計	1	0	0	0	0	0	0	50
6	男		1				1		29
	女								20
	計	0	1	0	0	0	1	0	49
7	男	1							30
	女								20
	計	1	0	0	0	0	0	0	50
8	男	2	1			1			31
	女		1			1			19
	計	2	2	0	0	2	0	0	50
9	男	1	1			1			31
	女								19
	計	1	1	0	0	1	0	0	50
10	男		1			1			30
	女	1							20
	計	1	1	0	0	1	0	0	50
11	男		1	1					29
	女								20
	計	0	1	1	0	0	0	0	49
12	男	1							30
	女								20
	計	1	0	0	0	0	0	0	50
13	男								30
	女								20
	計	0	0	0	0	0	0	0	50
14	男								30
	女								20
	計	0	0	0	0	0	0	0	50
15	男								30
	女		1	1					19
	計	0	1	1	0	0	0	0	49

年度	性別	入所者数	退所者数	退所理由					年度末 在所者数
				家庭復帰	入院	他の施設入所	グループホームへ	その他(死亡)	
16	男	1	1			1			30
	女	1							20
	計	2	1	0	0	1	0	0	50
17	男		2			1		1	28
	女								20
	計	0	2	0	0	1	0	1	48
18	男	4	4	1	1		2		28
	女								20
	計	4	4	1	1	0	2	0	48
19	男	3	1			1			30
	女								20
	計	3	1	0	0	1	0	0	50
20	男	2	2					2	30
	女								20
	計	2	2	0	0	0	0	2	50
21	男	1	1		1				30
	女								20
	計	1	1	0	1	0	0	0	50
22	男								30
	女								20
	計	0	0	0	0	0	0	0	50
23	男								30
	女								20
	計	0	0	0	0	0	0	0	50
24	男								30
	女								20
	計	0	0	0	0	0	0	0	50
25	男	2	3				2	1	29
	女	3	3				3		20
	計	5	6	0	0	0	5	1	49
26	男	1	1		1				29
	女	1	2		1		1		19
	計	2	3	0	2	0	1	0	48
27	男								29
	女								19
	計	0	0	0	0	0	0	0	48
28	男	1							30
	女								19
	計	1	0	0	0	0	0	0	49
29	男								30
	女								19
	計	0	0	0	0	0	0	0	49
30	男		1			1			30
	女								18
	計	0	1	0	0	1	0	0	48
令和元	男								30
	女								18
	計	0	0	0	0	0	0	0	48
2	男								30
	女	1							19
	計	1	0	0	0	0	0	0	49
3	男								30
	女								19
	計	0	0	0	0	0	0	0	49
4	男		1		1				29
	女								19
	計	0	1	0	1	0	0	0	48
5	男	3							32
	女	3	2		2				20
	計	6	2	0	2	0	0	0	52

グループホームアカシヤ寮 年度別年齢構成

(4月1日現在、単位:人)

年度	性別	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計	平均(歳)
平成3	男		2	2					4	29.3
	女								0	
	計	0	2	2	0	0	0	0	4	
4	男		1	3					4	30.3
	女								0	
	計	0	1	3	0	0	0	0	4	
5	男		1	3					4	31.3
	女								0	
	計	0	1	3	0	0	0	0	4	
6	男		1	3					4	32.3
	女								0	
	計	0	1	3	0	0	0	0	4	
7	男		1	3					4	34.0
	女								0	
	計	0	1	3	0	0	0	0	4	
8	男		1	2	1				4	35.0
	女								0	
	計	0	1	2	1	0	0	0	4	
9	男		1	2	1				4	36.0
	女								0	
	計	0	1	2	1	0	0	0	4	
10	男			2	2				4	37.0
	女								0	
	計	0	0	2	2	0	0	0	4	
11	男			2	2				4	38.0
	女								0	
	計	0	0	2	2	0	0	0	4	
12	男			2	2				4	39.0
	女								0	
	計	0	0	2	2	0	0	0	4	
13	男			2	2				4	40.0
	女								0	
	計	0	0	2	2	0	0	0	4	
14	男			1	3				4	41.0
	女								0	
	計	0	0	1	3	0	0	0	4	
15	男			1	3				4	42.0
	女								0	
	計	0	0	1	3	0	0	0	4	
16	男			1	3				4	43.0
	女								0	
	計	0	0	1	3	0	0	0	4	
17	男			1	3				4	44.0
	女								0	
	計	0	0	1	3	0	0	0	4	
18	男			1	2	1			4	45.0
	女								0	
	計	0	0	1	2	1	0	0	4	
19	男			1	3				4	45.5
	女								0	
	計	0	0	1	3	0	0	0	4	

年度	性別	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	計	平均(歳)
20	男				3	1			4	46.5
	女								0	
	計	0	0	0	3	1	0	0	4	
21	男				2	2			4	47.5
	女								0	
	計	0	0	0	2	2	0	0	4	
22	男				2	2			4	48.5
	女								0	
	計	0	0	0	2	2	0	0	4	
23	男				1	3			4	49.5
	女								0	
	計	0	0	0	1	3	0	0	4	
24	男				1	3			4	50.5
	女								0	
	計	0	0	0	1	3	0	0	4	
25	男				1	3			4	51.5
	女								0	
	計	0	0	0	1	3	0	0	4	
26	男		1		2	3			6	52.0
	女					1	2		3	
	計	0	1	0	2	4	2	0	9	
27	男		1		2	3			6	52.7
	女					1	3		4	
	計	0	1	0	2	4	3	0	10	
28	男		1		2	3			6	53.7
	女					1	3		4	
	計	0	1	0	2	4	3	0	10	
29	男			1	1	4			6	54.7
	女					1	3		4	
	計	0	0	1	1	5	3	0	10	
30	男			1		4	1		6	55.7
	女					1	3		4	
	計	0	0	1	0	5	4	0	10	
令和元	男			1		3	2		6	56.7
	女					1	3		4	
	計	0	0	1	0	4	5	0	10	
2	男			1		2	3		6	57.7
	女					1	2	1	4	
	計	0	0	1	0	3	5	1	10	
3	男			1		2	3		6	58.7
	女					1	2	1	4	
	計	0	0	1	0	3	5	1	10	
4	男			1		2	3		6	58.3
	女					1	2		3	
	計	0	0	1	0	3	5	0	9	
5	男			1		2	3		6	59.3
	女					1	1	1	3	
	計	0	0	1	0	3	4	1	9	
6	男			1		2	3		6	60.3
	女					1	1	1	3	
	計	0	0	1	0	3	4	1	9	

グループホームアカシヤ寮 年度別入退所状況

(単位:人)

年度	性別	入所者数	退所者数	退所理由				年度末 在所者数
				家庭復帰	入院	他の施設入所	その他(死亡)	
平成3	男	4						4
	女							0
	計	4	0	0	0	0	0	4
4	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
5	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
6	男		1			1		3
	女							0
	計	0	1	0	0	1	0	3
7	男	1						4
	女							0
	計	1	0	0	0	0	0	4
8	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
9	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
10	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
11	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
12	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
13	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
14	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
15	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
16	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
17	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
18	男	1	2	1	1			3
	女							0
	計	1	2	1	1	0	0	3

年度	性別	入所者数	退所者数	退所理由				年度末 在所者数
				家庭復帰	入院	他の施設入所	その他(死亡)	
19	男	1						4
	女							0
	計	1	0	0	0	0	0	4
20	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
21	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
22	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
23	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
24	男							4
	女							0
	計	0	0	0	0	0	0	4
25	男	2						6
	女	3						3
	計	5	0	0	0	0	0	9
26	男							6
	女	1						4
	計	1	0	0	0	0	0	10
27	男							6
	女							4
	計	0	0	0	0	0	0	10
28	男							6
	女							4
	計	0	0	0	0	0	0	10
29	男							6
	女							4
	計	0	0	0	0	0	0	10
30	男							6
	女							4
	計	0	0	0	0	0	0	10
令和元	男							6
	女							4
	計	0	0	0	0	0	0	10
2	男							6
	女							4
	計	0	0	0	0	0	0	10
3	男							6
	女		1		1			3
	計	0	1	0	1	0	0	9
4	男							6
	女							3
	計	0	0	0	0	0	0	9
5	男							6
	女							3
	計	0	0	0	0	0	0	9

編集後記

アカシヤの里が創立40周年を迎えるのを機に、誕生の経緯から今日に至るまでの歩みを記念誌にまとめられたことを大変うれしく思っています。その編集にあたり、多くの皆様にはご多忙の中、貴重なお話や原稿、資料をお寄せいただき深く感謝いたします。

特に、アカシヤの里の設立運動が今から半世紀以上も前の1973(昭和48)年に始まり、10年以上に及ぶ苦闘と熱意の末に開所へとつながったことを知り胸が熱くなりました。取材では、当時、運動に携わった人たちが、高齢となった今も昨日のこつのように生き生きと語られ、また、県へ陳情するために作った模型も大切に保管されていたりしました。

開所当時19.8歳だった入所者の平均年齢は現在53.6歳となり、持病のある人も増えています。このため、日々の活動内容も、体を動かす活発なものから工作やカラオケなど室内で行うものが増えていますが、これからもずっと健やかでいてほしいと願っています。

今回、記念誌の制作を通して強く感じたのは、「アカシヤの里が多くの人の愛によって支えられている」ということでした。もちろん、紙数の制約上、収録できなかったこと、語り尽くせなかったことは多々ありますが、40年間、この地で刻んできたアカシヤの里の軌跡と、人々の思いにふれていただく一冊になれば幸いです。

— 創立40周年記念誌編集委員 —

社会福祉法人アカシヤの里 創立40周年記念誌「愛に支えられて」

2024年8月1日発行

発行 社会福祉法人アカシヤの里
〒920-0226 石川県金沢市栗崎町5丁目3番地8
電話 076-237-0294

制作 有限会社ライターハウス
〒920-0061 石川県金沢市問屋町1丁目90番地

印刷 株式会社大和印刷社
〒921-8043 石川県金沢市西泉5丁目91番地



アカシヤの里から望む白山

社会福祉法人

アカシヤの里

〒920-0226 石川県金沢市栗崎町5丁目3番地8

TEL:076-237-0294 / FAX:076-237-0295

- 障害者支援施設 アカシヤの里
- グループホーム アカシヤ寮・さかえ寮
- 相談支援事業所 アカシヤの里